

## 第2回 玉野市総合計画策定検討会 議事概要

日時	平成31年1月24日(木) 13:30~15:30	
場所	玉野市消防庁舎3階 会議室	
出席者	岡本 輝代志 (岡山商科大学名誉教授)	城戸 清宏 (玉野市老人クラブ連合会)
	濱川 雅夫 (玉野市障害者総合支援協議会)	浜口 誠 (玉野市社会福祉協議会)
	渡邊 正俊 (玉野市医師会)	仲田 節史 (玉野市歯科医師会)
	平木 由美 (玉野市民生委員児童委員協議会)	浅野 聰子 (玉野市栄養改善協議会)
	岡崎 文代 (玉野市愛育委員協議会)	江田 康夫 (玉野市文化協会)
	梶原 秀夫 (玉野市PTA連合会)	内尾 玲 (玉野市女性団体連絡協議会)
	青井 一令 (玉野商工会議所)	國屋 利明 (地域水産業再生委員会玉野市地区部会)
	齋藤 光暉 (玉野市地域農業再生協議会)	赤木 大介 (玉野地区労働者福祉協議会)
	池田 敦子 (玉野市観光協会)	田中 徹 (玉野市コミュニティ協議会)
	森 信 (玉野市コミュニティ協議会)	岡崎 幸生 (玉野市コミュニティ協議会)
	森 美樹 (みなと・まちづくり機構たまの)	亀田 稔 (公募委員)
	大賀 和弘 (公募委員)	
欠席者	豊田 啓介 (玉野市体育協会)	朝田 丘 (玉野青年会議所)
事務局	黒田 晋 (市長)	山上 誠二 (副市長)
	桑折 恭平 (政策財政部長)	小笠原 隆文 (総合政策課長)
	岡本 敦 (総合政策課室長)	山平 智宏 (総合政策課室長)
傍聴人	2人	

### 議事の概要

#### 1 開会

#### 2 開会あいさつ

#### 3 議事

事務局 : (1)玉野市総合計画(素案)

(2)集約意見の総合計画への反映状況

※資料により説明

A委員 : 集約意見の総合計画への反映状況について、地域懇談会や若者世代意見交換会での主な意見は何だったのか。

事務局 : イノシシ対策や7月豪雨を受けての災害対応について意見が多かった。また、夏場の猛暑により、PTA等の学校関係者からはエアコン設置についての意見が多く寄せられた。

A委員 : 第1回会議での各委員の意見は反映されているか。

- B委員** : 前回、公共施設の老朽化に関して、文化センターや市民会館など、施設の在り方についての意見を述べたが、どのように反映されているのか。
- 事務局** : 個別の施設名を挙げてはいないが、【施策 38 : 公共施設再編整備の推進】の今後の主な取組の中で、公共施設の統廃合や周辺施設との連携等について記載している。
- C委員** : 前回、会議終了後に意見を提出させていただいたが、目標としている経常収支比率が、依然として低いと思われる。生涯活躍のまちを進めていくためには、安定した行財政運営が必要ではないか。
- 玉野市は、瀬戸内国際芸術祭への取組が遅れていると感じている。若手のアーティストに市内に滞在してもらうなど、芸術を根付かせ、市民との触れ合いに繋げていくべきである。他の自治体では、演劇を通じてコミュニケーション能力を身に付ける取組を行っている学校もある。小さい頃から芸術活動等に触れる機会を増やし、人材育成を進めてはどうか。
- 事務局** : 経常収支比率について、2017年度は市民税などの税収が増加したことが要因となり、前年に比べて3.5ポイント改善しているが、2018年度は下がる見込みである。前計画を策定した時に比べ、歳出面では高齢化の進行に伴う扶助費等が増えている一方、歳入面では全体として微増の状況である。現在行革を進めているが、経常収支比率を1%改善するためには145,000千円の削減が必要であり、これまでも経費削減等を行ってきたところであるが、まずは行革の目標達成に向けて取り組んでいきたいと考えている。
- 瀬戸内国際芸術祭に向けた取組については、本日いただいた意見を担当課に伝えておく。子ども達への芸術活動に触れる機会については、【施策 27 芸術・文化活動の推進】の今後の主な取組の中で記載している。
- A委員** : 財政が安定している自治体は稀である。今後、人口が減少していく中で、玉野市は公共施設の再編問題に直面するが、市長として、これらの問題に対応するために、どのような構想を持っているのか。
- 市長** : 人口は減少の一途をたどっており、各地域ではコミュニティが維持できなくなる恐れがあるが、全国的に減少している中で玉野市だけ人口が増加するのは難しいと考えている。先人から受け継いだ公共施設の更新時期が差し迫っており、我々が次の世代に繋げるためには、1施設に複数機能を持たせることや、現在の人口に見合った規模への転換を図っていく必要がある。また、全て公共が実施するのではなく、民間活力を活用することも必要である。玉野市と笠岡市は合併しておらず、合併特例債が受けられていないが、今ある財源の中で工夫していくためのベースとなるのが、総合計画だと考えている。
- A委員** : 合併特例債がない中で行財政運営を行っているのは評価したい。今後は、人口減少がさらに進む中で、経常収支比率が保てるのかが課題であろう。
- 前回会議の意見は、概ね反映されているということで良いか。
- 全委員** : 異議なし。

- D委員** : 【施策11：商工業の活性化】において、企業誘致を推進すると記載しているが、【施策9：みなとの効果的な活用】の目標指標である「取扱貨物量」は横ばいとなっている。同様に、【施策14：雇用の創出・働き方改革の推進】の目標指標である「有効求人倍率」や「市内高等学校卒業就職者の市内就職率」も横ばいであり、企業誘致に取り組む意識が感じられないことから、目標値を高くすべきではないか。市内就職率に関しては、商工高校の卒業生をどのように定着させていく考えなのか。また、【施策8：生活環境の適正な保全】において「イノシシ捕獲頭数」が目標指標として掲げられているが、監視カメラを設置して進入経路を分析するなど、住宅地への出没を防ぎ、人的被害を軽減する取組が重要ではないか。
- 事務局** : 企業誘致とその他の指標との関係性については、横ばいとしていることが適正なのか担当課に確認する。商工高校の卒業生が地元に着する対策については、別計画の中で考えていきたい。イノシシ対策については、継続して数値が取れる指標を設定したところであり、来年度には監視カメラを設置することとしており、人的被害の軽減が図られるよう取り組んでいく。
- E委員** : 医療・介護の面では、全世代型のシステムを考えていかなければならない。今後のまちづくりにおいて、コンパクトシティを目指す上で、公共施設の複合化は必要である。また、CCRsea構想には、若い人や高齢者を巻き込んだヘルスケアに関する取組が位置付けられている。健康管理に関しては医療を巻き込んでいかなければ、健康寿命の延伸は図れないため、専門家も参画できる体制にするなど、重点プロジェクトであるCCRseaを推進していただきたい。併せて、高齢者は移動手段がなくなっているため、シーバスやシータク等の公共交通施策にも力を入れていただきたい。玉野には、美術館等の観光客を呼び込める施設が少ないため、駅東倉庫の活用など、瀬戸芸のタイミングだけではなく、常に人が呼び込めるまちづくりを進めるべきである。
- 市長** : ご意見いただいたとおり、これからの玉野市のまちづくりは身の丈にあった施設整備を進めていかなければならない。安全・安心で暮らしやすいまちというのは第一条件であるが、健康であることは重要な要素である。生涯活躍のまちは、総合計画でも重点プロジェクトとして位置付けており、我々としても推し進めていきたいと考えている。
- D委員** : 元号と西暦の表示については、西暦を主にした方が分かりやすいのではないか。
- 事務局** : 過去については元号の方が馴染んでいる部分があり、将来については西暦としている。
- A委員** : 印刷を行うのは、いつか。
- 事務局** : 3月議会終了後である。西暦を主とするかは検討する。
- F委員** : 今後も人口減少は進むだろうが、外国人の居住者が増える可能性はある。8年のスパンで考えるのであれば、外国人の方にとっても住みやすいまちにな

るような記述も必要ではないか。また、市外の人からは、いつも玉野は魅力的なまちだと言われることが多い。芝居がしたい、ロケがしたいといった話もある。そういった人達をさらに呼び込むことができれば、新たな財源が確保できるのではないか。財源がない話は承知しているが、場所を提供するだけならお金はかからない。

**B委員** : 玉地区には外国人居住者が多くいるが、コミュニティや学校等のルールの周知は、外国語対応できているのか。

**市長** : 現在は、雇用企業にルールの周知をお願いしている状況である。市としては、そこまでのマニュアルはないが、入管法の改正により、これまでも増して外国人が居住する可能性もあり、そうした準備を進めたいと考えている。

**G委員** : 【施策 24：良質で安定した地域医療体制の充実】の目標指標である「市内の医療機関に満足している市民の割合」は半分にも満たず、「病床利用率」も60%前後であり、「繰入金割合」については大幅に減らす目標としている。今後、市民病院をどのようにしていく考えなのか。また、学校施設のエアコン整備に関しては、具体的な数値目標を挙げた方が分かりやすいのではないか。

**事務局** : 市民病院については、今後の主な取組②の中で今後の方向性を記載している。現在、市民病院に対しては、病院収入に加えて、市の一般財源の繰入金と国からの交付税を財源に運営補助を行っているが、今後は、市の繰入金がなくても市民病院が自らの収入で運営していけるよう経営改善を目指していくために、指標3の目標を設定している。

**市長** : 特別教室のエアコンについては県内でも高い割合であるが、普通教室への設置率はほぼ0%である。来年の夏までには、30人に対し1教室を確保することを目指しており、計画どおりに設置が進めば、60%程の設置率となる。安全対策が完了した後、第二弾として普通教室への全部設置を目指していきたいと考えている。

**H委員** : 【施策 20：高齢者福祉の充実】の目標指標である「ボランティアセンター設置数」と【施策 19：地域福祉の充実】の目標指標である「地区社会福祉協議会の立ち上げ数」の関係は、整合性が図られているのか。

**事務局** : 地区社会福祉協議会は、和田・玉原・東兎の3地区にあり、ボランティアセンターは和田・玉原の2地区にある。高齢者の困りごとに対応するなど、全地区に広げていきたいと考えており、社会福祉協議会等と連携して取り組んでいく。

**D委員** : 【施策 35：多様な地域主体の連携による地域活動の促進】の今後の主な取組③に掲げている市職員による地域自治活動の支援については、強くお願いしたい。若い人が役員になってくれないなど、地域は担い手が不足して困っている。

**副市長** : 職員としての一面と地域住民としての一面があり、今後の地域社会を支える一員としての意識のもと、取り組んでいく。

**I 委員** : 経常収支比率は現状より改善する目標とし、90%以下にすべきだと考えている。ただし、財政的に難しい状況であるということは承知しており、95%という目標値は達成すべき最低ラインであり、それ以上を目指す旨を明記していただきたい。また、【施策 36：柔軟かつ多様な行政運営の推進】の目標値について、前計画では3割を切っていたため、同じことを繰り返さないよう、意気込みを記載すべきである。

**J 委員** : 人口が8万人から6万人に減少しており、市民の要望を全て聞き入れれば、財政の再建は難しい。県民局は、かつて11箇所にあったが現在は3箇所であり、今ではそれが当たり前になっている。適正な受益者負担が必要であり、そのために必要な施策を進めていただきたい。

**A 委員** : 本日の各委員の意見を踏まえ、計画内容の加筆・修正をお願いしたい。

副座長から話のあった県民局の再編時に、自分は戦略会議の会長を務めていたが、長期的な視点に立って、今何をすべきか考えることが重要である。目標はあくまでも100%であるが、安易に達成できるものとするれば、市民は満足できない。自治体を取り巻く環境は変化しており、大変厳しい状況にある。市長として、これまではやりたいことがあってもできない状況にあったであろうが、市のことを総合的に考えていくチャンスであり、何か市民の記憶に残るもの、目に見えるものを進めていただければと願う。

#### 4 その他

**事務局** : 製本が出来次第、各委員には冊子を配布させていただくので、内容を確認願いたい。

#### 5 閉会

**市長** : 皆様のご支援・ご協力をいただき、本検討会における意見を反映した成果を取りまとめることができた。この後、明日開催の市民説明会や、現在実施しているパブリックコメントで寄せられた意見等を反映した後に、最終的な取りまとめを行い、3月議会において議決いただく予定である。

そして、総合計画の推進は、ここからが新たなスタートである。基本構想に掲げる「瀬戸内に輝く市民が誇れるまち～たまのからはじまり未来へつなぐ～」という将来像を実現すべく、「活力・快適」「安全・安心」「人・つながり」の3つの基本理念のもと、職員一丸となって、全力で各種施策を推進する。

また、総合計画の進捗状況については、市が実施する行政評価制度による進捗管理を行うとともに、市民の皆様にも検証していただく必要があるものと認識している。今後においても、委員の皆様への市政に関する様々なご意見・ご提案を頂戴できればと考えているので、ご指導・ご協力をお願いしたい。